

# やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

1879(明治12)年9月に金沢で刊行された『虎列刺合戦絵入くどき』という小型の和本がある。「虎列刺」はコレラで、石川県で同年6月頃から流行し始め、死者2万人余り、致死率7割に及んだ。この猛烈なコレラを和漢洋の薬など総力で退治するのを擬人的に描いたのがこの本だった。

コレラは1822(文政5)年に西日本で流行したのが最初で、日米修好通商条約が結ばれた1858(安政5)年には、米艦「シンシッピ号」が中国から長崎に持ち込んだとされるコレラが江戸で大流行し、死者は3、4万人にのぼったという。

その後1877(明治10)年、1879(同12)年、さらにその後も断続的に続いたが、その最大



◎明治12年の「虎列刺合戦絵入くどき」(筆者蔵)  
◎明治13年に刻まれた志都美神社の石碑



級のコレラ来襲が、明治12年のものだった。全国で16万2637人が罹り、死者は10万57

対、官憲の強圧的な対策への反感などが理由だった。

明治12年のコレラは奈良にも波及した。『奈良の近代史年表』(中本宏明著)でコレラ關係を探すと6月に県下の罹病者は80人、女64人で、半数以上が死亡。7月は男女合わせて千人以上、7月23日だけでも、男71人、女70人の患者が出た。帯解小学校は6日間臨時休校した。18802(同15)年8月12日には、稲の品種改良などに努め篤農家として知られた中村直三がコレラで急逝し、1886(同19)年には患者2956人、死者2238人だった。

こうした過去に猖獗を極めた疫病の記憶は、今も身近に迎えることができる。奈良市三碓町の

添御縣坐神社の拜殿に掲げられた大型の神社境内凶絵馬は、森に包まれた神社境内に、多くの人々が参詣する姿を描いているが、右上隅には「奉納/明治十二年己卯九月日/今般虎列刺流行二付/村民一同為安全祈脩」と墨書されている。コレラは「虎列刺」「虎狼痢」「箇旁痢」(後の二つはコロリ)とも表記された。JR和歌山線志都美駅の西方の香芝市今泉の志都美神社には、明治12年のコレラで患者が1人もでなかったことに感謝して、神社本殿裏の石垣の中に封じ込めるように、石碑が嵌め込まれている。「明治十二年八月虎列刺病流行/氏子祈願/無一人患者/庶人歓呼奉納」とある。人々の安堵と感謝の気持ちが伝わっている。

表) (奈良民俗文化研究所代

## 疾病流行の記憶 身近に